

【インターネットの登場が「人類に初めての資本主義」をもたらす】

どうもゆうです！

さて、それで今号では

「インターネットの登場が
「人類に初めての資本主義」をもたらす」

ということを書いていきたいと思います。

なるだけ、口語で分かりやすく、中学3年生くらいの人でも

理解できるように書きますから、

どの学校の先生よりも分かりやすく書くことを心がけますので

ぜひ理解してください。

そして、「初めての資本主義」という言葉。

これを聞いて多くの方は思うわけです。

「初めての資本主義??今って資本主義じゃないの??

学校でそう教えられたよ?」

って思うわけなんです。

が、声を大にして言いたいわけですが

「日本は資本主義なんかではない」わけです。

義務教育で教えられたことは嘘である、
とまで私は言います。

もっと言えば今まで世界で本当の資本主義、
それを純資本主義というのですが
それが存在したことがどうもない、
のです。

これが多くの人が教えられていない
ある種の学問的な真実なのですが
今日はそれを書きたいと思います。

そして私が今号で書くことは例えば
私の母校の早稲田の学生たちも知らないし
答えられないことだし

東大の経済を勉強していた学生たちも
当然大体は答えられないことだし

また大学の教授レベルの人らでも理解していない話です。

が、おそらく北京大学とか欧州の大学なんかの教授くらいだと知っているだろう、という話でもあります。

そして最近のネットで自分で稼ぐ、ということをしている自営業者たちはその日本の大学教授が分かってないことを体感的に理解している人が多いというのがこれまたすごいところで面白いところです。

そして、

この「資本主義とは何か」を理解するのはとても大事なことですよね。

だって私たちは「自分で稼ぐ」をやろうとしているわけですがそれは一応、資本主義のルールというのがありましてその上でそれを行おうとしているわけです。

が、学校でもこの資本主義のルールなんて教えてくれませんしだから多くの方は資本主義なんていうと「お金でものを買ったりすることでしょ～」なんて思うかもしれませんが

「漠然と」資本主義ってのを捉えているわけですね。

これは右翼とか左翼という単語も一緒に

今の日本では右翼は韓国と中国がなんか嫌いな人

左翼というのはその逆の人、みたいな認識でしょうか。

それは全然違うのですが、

とりあえず今日は本題じゃないのでこれは説明しませんが

日本では「イメージ」で捉えられている単語ってのが

ありまして、

その最たるものが「資本主義」って単語なんです。

みんな「お金を稼ぎたい」と言う。

けどその「お金を稼ぎたい」のはそれに明確な所有権が

発生するからなんです

それこそあなたが稼いだお金はあなたのもの

私が稼いだお金は私のもの、という所有権があるわけですが

この「お金を稼ぎたい」という欲求とかは資本主義でないと

発揮されない欲求なんですけど

みんなその資本主義に対して何も知らず、無自覚に

お金が稼ぎたい、と言うわけですね。

当然社会のシステム、ルールというのを教えられていないから

資本主義のルールというのが分からないから

だからどんなに学んでも稼げないという人が続出するわけです。

だから、私は「自分で稼ぐ」ということを扱ってるメルマガなので

そして権威ある教授陣とは違って、

私は権威ゼロですが、ただ自分でまだまだですが

一応ちゃんと自分の食い扶持を十分稼げますから

だからこの「資本主義」についてこれからちよくちよく

書いていこうと思います。

それで以前にもちよつと書いたのですが

日本は社会主義なんですね。

もう少し言うと社会主義をベースとした社会体制でありまして

そこに資本主義の要素が言い訳として加わっている

くらいの社会体制です。

だからその基礎は社会主義なんです。多くの日本人が

「なんか変な国なのかもな～」と感じているのは

ずばり言うと日本が本質的には社会主義だからですね。

ベッキーや舛添がぼこぼこにたたかれるのも社会主義だからです。

たたいてる当人たちは無意識だろうけど

その後ろには社会主義思想ってのが根強く洗脳されてあるんです。

それで前にも書いたけどまず資本主義では

公的部門＝国家とか役人の官僚機構とか と

私的企業が分離しております。

一方社会主義では 公的部門と私的企業が癒着状態にあり

公的部門のお上、すなわち役人たちが

私的企業をコントロールし、統制し、管轄する制度です。

日本では「行政指導」というのがありますが

多くの株式会社など事業体は

ここにビクビクしながら事業活動を行うわけではありますが

これは強制力はない、なんて嘘を言うけど明確に強制力が

働いており

日本の社会体制は明確に役人が事業を管轄する体制であって
それは小室直樹という大思想家が明らかにしたけど
やはり本質的には社会主義なわけです。

稼いだ起業家を国税庁がぶっつぶす、なんてこともしております
ここで彼らの私有財産権に手をつけて資本主義で最も重要な
所有権にまで国家が手を出す。

日本の場合は社会主義をベースとして封建制とか
ちょっとだけの資本主義というのがなんとも奇妙に絡まった
そういう社会体制でありまして、これは実は体制としては
スターリン時代のソ連とあまり変わりはないのですね。

日本経済はまさに今破綻の一直線であります。

この真犯人は誰か？とみんな考えるのだけど
答えが分からない。

だからそれを共産党なんかは「資本主義の敗北だ！」とか
言うし

自民党なんかは「円高のせいなんだ！だから政府が
市場操作して、円安にすれば 国家と癒着した
トヨタが息を吹き返すのだ！」

と言うわけですよ。

これは実は両者とも本質的には同じ主張をしていることが
分かりますでしょうか。

共産党ならまだ分かります。だって共産主義を名乗ってるのだから

資本主義(資本制社会)がだめだったということにして
それで社会主義革命をしたい、というマルクス主義の流れを
信奉しているのだから

そうやって人々を誘導して、だまされやすい人に

貧乏層 VS 金持ちの対立軸を洗脳して

(これを階級史観闘争、とか言う。けど本来そんな闘争はあるのか
ということです。金持ちが貧乏層の給料を払っている、
という厳しい現実を誰も言わない。)

そしてそういう思想に人々を染め上げて

党員にリクルートする、というのは戦術的には分かります。

が恐ろしいのは自民とかのほうで彼らは「保守」を
名乗るから資本主義に沿って経済運営するのか？

というと違いまして、資本主義ではあつてはいけない

大企業(私的企業)と明確に公的部門の政府や役人が癒着をし、

そしてさらには資本主義では自由市場というのが大事になるのですが
最近の GPIF の買い上げや為替介入を見ると分かるように

明確に「自由市場を無視して政府が相場操縦」をするわけです。

いったいどの国が

公的部門と私的企業の境目が曖昧な

中国を笑えるのかとなります。

実は社会主義国日本においては

本当の意味での資本主義の政策を行う政党はないし、

また多くの人とその資本主義的思考方を持ち合わせていないし

だから本当の意味での保守政党というのは存在していないのだ

というのも問題としてあります。

が、これはまた難しい文章になりそうだから

別の機会に話します。

それで多くの人は経済学を信じなくなっております。

それもそのはずであって、日本人の経済学不信の大きな理由は

有名経済学者、特に

「政府関係者の経済学者たち」の予測がことごとく

外れるからです。

東大の教授の先生たちは経済学を殺した戦犯であるとも

いえます。

よく見るのは 著名な経済学者というのがおりまして

「これから株価は25000円になります」とか言って

暴落したり・・・とか。よくありますよね。

最近だとイェール大学名誉教授の浜田さんが

「アベノミクスでジャブジャブマネーしたら経済は回復します」

とか2013年に言ってたんだけど

私のメルマガでは「あいつは嘘つきだ。そんなことは起こらない」

と書いていたのだけど

あの浜田のじいさんを アメリカの著名大学の名誉教授だから
って信じた人は今「だまされた」と思ってるわけです。

また多くの経済学はアメリカ型の資本主義から来ております。
といってもアメリカも「純」資本主義ではないのですが

そこで発展したのが経済学でありまして

それをじゃあ本質的に社会主義国の日本で適用したら
どうなるか？といえはやはりそれはうまくいかない

わけですね。

だから多くの方は経済学を信じないし

最近では「経済学なんて無用だ」と言う人も出てきております。

がじゃあその人たちに「資本主義って何？」って聞くと
答えられないわけですね。

もう少し言うと「江戸時代は資本主義だと思っ？」って
聞いても答えられません。(答えは違うんですけど)

また「資本主義は終わりだ、終焉だ！だから社会主義革命を！」

という人たちがいて日本の左の勢力がこれなんです

じゃあ彼らにも「資本主義って何？」と聞くと答えられないわけです。

資本主義は貧乏人と金持ちが生まれる、格差を生むもの～

みたいな本質とずれたことしか答えられない人が

ほとんどでありまして

おそらく志井さんなんかも発言を分析していくと

実は答えられないと思います。

だから面白いことに日本人は自分が資本主義で生きていると

思っているのだけど、勘違いしているのだけど

「その資本主義って何ですか」という質問には

だれも答えられないわけでした

それこそ大学の教授たちでも答えられないわけでした

ましてやその辺のギャルがそれを答えられるなんてのは

まあないわけです。

この人たちが一律に多数決で投票権を持つのが民主主義であります。

この多数決システムが最低限機能するには前提として、

大多数が「資本主義とは何か」を「漠然とではなく」

明確に、答えられる必要がある、ということです。

そして「自分で稼ぐ」をするにしても

「資本主義とはこうこう、こういうもんだ！」

と言える人がやっぱり短期ではなく長期で稼ぐわけです。

これは私のビジネス分野の師匠が柴野さんなんですが

彼が20代の私に「資本主義のルール」を教えたわけです。

それが私に大きな良い影響を与えたのは間違いなく

だから私は今でも感謝の意味をこめてちゃんと名前を挙げて

書くのですが、柴野さんの言ってる資本主義のルールは

実は大思想家小室直樹の分析する資本主義と

ほぼ完全一致してるんですね。

今成功している人たちはこれから定期的を書くような

「資本主義的精神」を生まれながらに持ってる人たちであるのですが

それをちゃんと脳みそで「認識」して

それで力強く学んで生きましようや、っていう考え方のもと

書いております。

前に書いたように天才は資本主義とは何かを

一瞬で感性で理解する人なのですが

それを文字を通じて認識することで学ぶ人は同等レベル
もしくはそれ以上の水準に達することができるのが
ネットのすごいところです。

それで早速ですが

資本主義というのは英語でキャピタリズムって言います。

モデル ネ カピタリズムとか言いますが

資本主義でいいです。

この資本主義こそが「自分で稼ぐ」と言う分野で

頑張っており、そしてこれからもさらに

資本主義市場の中で勝負して利益をあげていきたい

と言う人が徹底説明する必要のある、そういうものです。

そしてこの資本主義に対しては

あまりにも多くの批判というのがされてきました。

「資本主義は終わった！」「資本主義は終焉だ！」

そういう人たちが多いのですね。

ちなみに最近ブラック会社と言う言葉があるのですが

あのブラック会社という言葉在世間に広めた人は

私の知ってる人です。

彼は共産主義の人であったけど、そして私はそれには

与さない人ではあったけど、根本的に彼は弱者の味方であって

悪い人ではなかったのですけど

彼が言っていたのは「資本主義はだめだな」ってことでした。

ちなみに宇都宮さんって都知事候補で名前あがった人がいますが

彼の後ろも彼らがついてるのですね。

私は 資本主義はだめだなとは思っていませんので

当時その発言を聞いて

「共産主義の人ってこう考えるんだな。これが

社会の大勢になったら怖いことになるな」なんて思ったのですが

最近それが格差が拡大することになって

必然的に大勢になりつつあるから

私は結構日本は今やばいことになっている、と思うわけです。

そしてそもそも

資本主義は島国日本では誕生したことすらない社会体制なので

それを知ってるから、最近の資本主義批判ってのは
いろいろ考えさせられることがあります。

だって資本主義なんて日本には一度もあつたことはないし
~~~~~  
今の2016年の日本だってそうですし  
~~~~~

そこで資本主義はだめだ、とか言われても
「いやいや、資本主義はまだ人類が経験したことない
社会体制だよ」

としかいえないわけです。

故・小室直樹先生は生きていたらそう言うことでしょう。

そして資本主義というのはあまりにも多くの批判をされてきたのですが
結局なんとか生き残ってるのは

「資本主義らしきもの」なんですね。

その「資本主義らしきもの」を日本人は資本主義と
イメージで捉えて言葉にするのですが

その資本主義らしきものは明確に資本主義ではないわけです。

まず資本主義の必要条件である

公的部門と私的企業の分離というのが日本では

行われていませんし

資本主義であれば政府がトヨタが円高になったらきつとか

いって

今みたくドル買い円売り介入なんてしないんです。

それは市場操作にもなりますから、資本主義に必要な

自由市場への統制であるから

社会主義の考え方ですね。

この時点から日本は資本主義とはいえないわけです。

もっと言えば江戸時代は一見資本主義に見えますが

やっぱり一緒でして

特に資本主義では「所有権」というのが絶対的に

重要であります

その所有権もちちゃんと確立されていない。

だから明確に「日本は一度も資本主義というのを

体験していない国なのだ」と言えます。

そしてこれは実は日本だけではなくアメリカも

欧州も一緒であり、

「どの国でも本来の資本主義というのは

存在したことがない」

わけですね。

これを今から説明します。

そしてこれを説明するにはとても今号だけでは足りないから

時々定期的を書いていくのですが

とりあえず「資本主義の未来」ってのがしっかりと

あなたに見えるようになってくる、と思います。

それを目指します。

それで今までは 本来の資本主義は存在しえなかった

のですが、

実はこれから本当の意味の資本主義というのが

徐々に成立していくのです。

なぜか？分かりますか？

これはインターネット革命がもたらされたからです。

実は資本主義とインターネットというのは不可分の関係性にある
と言えるのです。

インターネットがない時代ならば資本主義は成り立たないし
資本主義というのはインターネットを前提とした
人類システムであった

というのが私たちが知る中でもっとも重要な観点のひとつです。

もう少し言いますと「経済理論」というのは
「経済学」というのはなんら役に立たない理論と
言われていました。

そういうことを言う人も多く、私も正直それを
言う人の気持ちも分かります。

がこの意見は実は間違いです。

いや、この意見を裏返しにしてみると、ずばり
本質が見えてくると言う意味で、

実はそれは「大切な意見」なのでもあります。

実は、情報革命、すなわちインターネット革命の後になって

~~~~~  
初めて、経済理論は真価が現れ、  
~~~~~

~~~~~  
そしてはじめてそこで実用的になる、ということでもあります。  
~~~~~

これからの資本主義の絶対必要条件として

あるのが「インターネット革命、情報革命」なのですが

この情報革命に成功した経済は栄え、

失敗した経済は日本のように滅びます。

この情報革命、インターネット革命は

経済だけにとどまらず、法律、政治、社会、宗教

またはイデオロギーにいたるまで、

大革命を伴わないと成功はどうもおぼつかないのですが

だからこれからの世代の人がそれを知るのは大事なことです。

それで経済学は役立たずだ、なんていわれるわけですが

そもそも経済学的前提としてあるのが

資本主義であります、じゃあその資本主義の前提である

完全競争というのは いったい どの国がそれを達成してるのか？

となるとどこも達成していません。

これは資本主義についてちょっと勉強した人なら

聞いたことがある言葉なのですが

「完全情報」という考え方があります。

情報の非対称性、とか言うのですが

それは例えば

「売り手」と「買い手」の間において、

「売り手」のみが専門知識と情報を有し、

「買い手」はそれを知らないというような

そういう双方で情報と知識の共有ができていない

状態のことを 情報の非対称性といいます。

最近の動画で分かりやすく言えば

多くの投資家がダウ理論を知らないのに

一部の人にはダウ理論知ってる、みたいなのも

これも情報の非対称性といえますね。

こういうことを知ってる人もいれば知らない人も
いるわけですし、これが情報の非対称性なわけですが
これが実は問題だったわけです。

それで資本主義の前提条件として実はいくつかあるのですが
その中で今日は1つを扱います。

そのひとつが上に書いた「完全情報」なんですね。

資本主義にとって非常に重要なのが自由市場なわけですし

それが「完全競争」市場とか言われるのですが

そのために必要なのが 等しく市場参加者が情報を持つてると
言われる「完全情報状態」なのですが

これほど重要なのに、その非現実性をこれほど
強く批判された条件もないわけです。

今の2016年の日本もそうですが

「情報を持つてるもの」

と

「情報を持つてないもの」

に分かれております。

そしてそこで競争に勝つのは「情報を持ってるもの」
になります。

この傾向はしばらく続きます。

そういうところで情報教材の価値というのがあるわけです。

が、資本主義の前提の一つとして「完全情報」という
考え方があって

これは「すべての市場参加者たちが公平に情報を得られる環境」
のことであります。

財のすべて、だから例えば通貨取引をしているなら
通貨のすべての性質や市場価格や
指値逆指値の値なんかをすべての市場参加者が

知ることができる、しかも無料で すぐに(時は金なり精神)

知ることが出来る。

これが実は完全情報であります。

「財のすべての性質を知ることができる」なんてのは

たいがいの場合、相当、もしくはスーパー非現実的ですよ？？

だからこの 資本主義の前提である完全情報というのは
すさまじい批判にさらされてきた、のです。

「完全情報なんてありえない！ そんなのは非現実的だ」
とずっと言われてきたわけです。

「すべての情報を無時間・無コスト＝無料で
正確にすべての参加者に伝える」

なんてことは言うのは簡単だけど
なかなかできないことですよね。

それがまず、資本主義システムの大問題としてあったわけです。

だからそういう意味で資本主義というシステムが
今まで機能した事例は世界でひとつもない

とさえいえるわけですね。

だって「完全情報」って前提がまずどこでも無理だったわけです。

が、ここに「インターネット革命」が来たわけです。

情報通信革命というのがやってきたことによって

どうもこの「完全情報により近い状態」が実現しそうに

なってきたんだからさあ大変、なんですね。

これを小室直樹先生は生前書かれていて

亡くなってしまったのだけど

私たちが生きている今の時代がその時代なわけですよ。

無コストとはいかないまでもかなり安いコストで

稼げる情報は手に入るし、最近は無料なものもあります。

パソコンやインターネットやスマホの普及で

「すべての情報を無時間・無コストで正確にすべての

参加者に伝える」

ということの非現実性は急速に消滅しつつあるわけですね。

今は投資で言えば指値や逆指値情報を証券会社や

大口や金融庁だけが独占している状態ではありますが

これもいずれ時間が経過して政治が正常化すれば

開示＝ディスクロージャーしろ という方向に

変わっていくかもしれません。

官僚が調子乗ってる日本では無理だから

他の国からそうなるかもしれません。

昔は例えば取引コストというのも非常に高かったわけですが

最近取引コストなんかも急激に縮小してきております。

いずれ金融業界の腐敗というのがちょっとずつ追及されれば

ほぼゼロという状態になるかもしれません。

それは5年とか10年の単位で徐々に進んでいくという

世界の未来の方向性です。

そうならざるを得ない。

だから今まで非現実的、と言われていた

「完全情報」という資本主義の前提が

資本主義の大問題としてあったのですが

これがどうも最近、クリアされる方向性に傾いている

わけですね。

だから同時に非現実的である、とされていた
理論経済学の真価がこれからの時代発揮されていく
ということになります。

たとえばメルマガでダウ理論についてかなり詳しくやっていますが
あれも無コストで配信しておりますが

一応ダウ理論についての知識というのはこうやって
ネットのメルマガって媒体で情報共有ができるわけですが

それは「完全情報状態」に一步は近づいていると思います。

といってもまだまだですけども。

が、確実にインターネットの革命ってのは
資本主義の大問題であった「完全情報の非現実性」というのを
「現実的に」変えてきているわけですね。

そして今日は完全情報のことだけ扱ったのですが

資本主義の大前提である

完全競争の4条件が

1同質性

2多数性

そして3完全情報

4参入・退出の自由

なのでありますが

インターネットの登場で実は完全情報だけではなくて

多数性についても満たされていってるわけです。

「ボーダーレス経済」というのが今の世界をまさに

あらわす単語であります

これからの時代は財が国家も遠距離も瞬間で

乗り越えて世界中を移動していきます。

前に「フィンテック」の話をしました

がこれです。どんどんその動きが加速します。

「市場が全世界に広がる」状態になるわけですが

もう海外の証券会社なんかを使っていると完全に
市場は世界、になっておりますよね。

全世界に市場が広がるわけですから市場参加者の数は
十分に多いわけでした

ここで「多数性」も満たされます。

また上に書いた完全競争の条件の1同質性
ってのは何か？というと

それは買い手も売り手もいかなる差別がない
ってことです。

これはまた機会あれば詳しく書きたいけど

「あんたは好きだから売ります、
あんたは嫌いだから売りません」

みたいなそういういかなる差別もないことです。

これもやはりインターネット革命、すなわち情報革命によって
もたらされるものであって

今は徐々に「ボーダーレス経済」になってきているから

カネも資本も人も企業も国境も遠距離も

すぐには乗り越えて移動しちゃうんですね。

イギリスの経営者がアイルランドの会社を買収し

ニュージーランドのスタッフに企画させて

インドのプログラマーにアメリカのコンピューターを

設計させて

マレーシアの労働者に製品を生産させて

それをカナダで売る

みたいなことが普通になるんです。

だから今までは資本主義というのは

「技術的制約があったために」

どうしても限界があり、

そしてそれがどの国でも実現されることはなかったのですが

それはアメリカでさえも全然実現できていなかったのですが

(だからアメリカが資本主義か？というとおそらく

厳密にはそうとはいえない。)

これから情報革命、すなわちネットの技術が

さらに進むことで一気に

資本主義の完全競争の諸条件が満たされていくことになってく
わけです。

もうすでにこの「資本主義の導入期」に目をつけて

動いている人たちが巨額の金を稼ぎ出しておりますよね。

日本では非常にマルクス主義の社会主義革命を目指す人たちが
強いから

資本主義は終わった～とか言われるわけですが

それは社会主義の島国日本の話であって

世界の指導者たちは「ついにこれから資本主義の波が
インターネット革命に伴ってやってくるぞ」

と準備しているわけですね。

まだ「一度も経験したことない資本主義」を日本人は

それを経験してると勘違いしてるのですが

それで社会主義に移行する勢力が強くなっておりませんが

その間に世界はどんどんこの資本主義の導入期

を狙って成長を続けていくわけです。

そしてもう少し言うと、いまだこの資本主義というのを

ちゃんと体現できている国というのはありませんから

国家というのがこれからその資本主義をどう体現していくか？

というところで

「富める国」と「そうじゃない経済が沈む国」

で数十年のスパンで分かれていきます。

必ずそうなります。

これは個人の単位にしてもそうなんですね。

個人のネット起業家とか投資家って人たちがいるけど

彼らは20代～30代ですが

おそらく故小室直樹からしたら彼らがまさに

「新 資本主義人類」であります。

だから「なんかネットで稼ぐって面白そうだぞ」

って思ってくれて私のメルマガ見てくれてる人がいると

思うのですが

その「感性」は実はすごい大事でして

もっとその感性を言葉にして言うならば

「なんかネットで稼ぐって面白そうだぞ」

という感性の人の後ろの思想というのは

「どうも今まで資本主義市場の限界は完全情報とか

同質性とかに問題があったけど

最近ネットの登場でその「夢物語」が現実的になってきた。

これだったら個人でも勝負できるんじゃないか」

という思想が言葉で認識してなくても無意識にあるわけですが

それが感性として直感として「おもしろそうだぞ」という

多くの人の感情になってるんだ

ってことですね。

だからこれから世界中でインターネットの情報革命を通して

資本主義というのが「人類史上初めて」誕生していく

のである、というのが私が見えている未来です。

多くの日本人は資本主義が「元からあるもの」

「生まれたときからあるもの」と勘違いしているんですが

実は日本には一度も資本主義は生まれていないのです。

「それらしきもの」はあるけど条件が大きく欠けている

社会体制しかなかった。

それがこれから本格的に「純資本主義」ともいえる

そういう資本主義に根ざした体制というのが

これから現実化できる状態になりつつあって

世界はその方向で動いている

ということなんですね。

そして面白いのが今まではこれが企業体だったのが

どうも最近「個人」に変わってきておりまして

個人が「純度の高い資本主義」で戦う構造になっていく
と言えます。

こういう大きな世界の変化というのが起こっておりまして

それがまさにアメリカで以前書いたリバータリアン思想が
支持されだしている背景としてありまして

その潮流が日本にも無自覚にやってきておりまして、
「自分で稼ぐ」が注目されだしている背景として、あります。

そしてそこに気づいているのは本当に
ごくごく少数の「変な人たち」です。

この人たちがこれからの新しい世界の社会体制を
生き抜く人たちになると 未来が見えてきます。

日本では

「資本主義は終焉だ これからは社会主義だ」

とか強引にさせられつつありますが

(マルクスの社会主義革命の流れですね)

実はそもそも日本に資本主義があったことはないですし

(そもそも所有権概念の確立がされていない。

稼いだ資産は所有権ですが、それを簡単に国家にとられますでしょ?)

むしろその資本主義は Windows95 とかそのあたりから

ようやく諸条件が満たされてきた感じでして

これからようやく上記のような完全情報というような

今まで夢物語であった条件が満たされていき

資本主義というのがこれから

まずは最初にアジア中心に次は中東やアフリカなどで

進んでいくと言うことです。

この大きな潮流を理解すれば昨日のリバータリアン思想というのが

時代の必然で生まれているのが分かりますし

そしてこの「怪しい情報業界」でその思想が

徐々に広がりつつあるのは

偶然ではないわけですね。

なんとも面白い時代です。

資本主義の話については重要な部分なので

またちよくちよくより詳しくこれからも

書いていきたいと思います。

それではまた！

ゆう